

個別施設計画（その他県民利用施設）
＜八ヶ岳自然ふれあいセンター＞

令和3年3月
令和6年3月改正
山梨県

目次

1	目的・位置付け	1
2	施設の状況・課題	1
3	今後の施設管理の方針	3
4	長寿命化に関する方針	3
5	長寿命化実施計画	5
6	長寿命化対策の実施効果	5
<別紙>	長寿命化実施計画（詳細）	6
<別表>	施設の建築物等所有状況一覧	7

1 目的・位置付け

(1) 目的

県が管理・所有する公共施設について、将来的な活用を見据えた総合的かつ計画的な管理を推進するため「個別施設計画」を策定し、利用者の安全の確保とともに、長寿命化型の管理を行うことにより、ライフサイクルコストの削減、財政負担の平準化、及び施設の長寿命化を通じた県民サービスの向上を図ることを目的とする。

(2) 位置付け

本計画は、「山梨県公共施設等総合管理計画」に基づく施設類型ごとの個別施設計画（国の「インフラ長寿命化基本計画」に規定する「個別施設ごとの長寿命化計画」）である。

(3) 対象施設

大分類	中分類	小分類	施設番号、施設名称		所管部局
I 県民利用 施設	7 その他県民 利用施設	① その他県民 利用施設	195	八ヶ岳自然ふれあいセンター	環境・エネ ルギー部

※分類は「山梨県公共施設等総合管理計画」における施設類型

(4) 計画期間

令和2年度から令和9年度までの8年間とする。

ただし、計画期間の中間年を目途に、必要に応じて計画内容の見直しを行うこととする。

2 施設の状況・課題

(1) 施設における建築物の所有状況

No.	施設名	センター棟	合計
195	八ヶ岳自然ふれあいセンター	1	1

※詳細データは<別表>のとおり

(2) 施設の状態（老朽化状況）

八ヶ岳自然ふれあいセンターは、築28年が経過し経年劣化がみられるものの、建築基準法上の耐震基準を満たした建築物であり、必要最低限の安全性は確保されている。

施設では、建築基準法及び消防法等に基づく法定点検を実施するとともに、建築部位・設備の劣化状況に応じ、これまでウッドデッキや建具等の修繕を実施してきている。

しかしながら、建築から28年が経過しており、老朽化に加え冬期の寒さも要因となり、

屋根の破損や外壁タイルの浮き、外部建具の不具合が生じているため、早急に更新等を行う必要がある。

また、空調設備や視聴覚機器の不調など、経年劣化による故障や不具合が毎年発生し、随時小修繕により対応しているが、既存設備の型式は古く、部品などが製造中止となっており部品の確保が困難となりつつあり修繕対応できないケースもあるため、今後、これらの設備や機器の更新又は大規模な改修の検討が必要である。

(3) 施設の運営・利用状況

八ヶ岳自然ふれあいセンターは、自然環境に関する情報と学習の機会を提供し、本県の良い環境の保全と継承に資することを目的に、平成6年11月、八ヶ岳南麓の特色ある自然環境や歴史文化などを有する11のスポット地区を活用しながら自然保護の意識を醸成する「八ヶ岳環境と文化のむら」事業の中心施設として位置付けて設置され、八ヶ岳の自然環境を活かした環境教育の拠点としての役割を担ってきている。

当施設は、展示ホールのほか豊富な蔵書を擁する図書室や視聴覚ホール等が整備されており、八ヶ岳エリアの自然や文化に関する事前学習・情報収集などを行うことができ、隣接した森林内の歩道など野外フィールドで効果的な環境学習を行うことが可能である。

また、季節やテーマごとの特別展、レンジャーの解説つき映像上映を開催するとともに、野外フィールドでの自然体験プログラムを実施し、ガイドウォークなどの予約制プログラムは年間150回程度、セルフガイド型プログラムは通年で開催している。

さらに、年度テーマに沿った企画事業や、隣接するキープ協会との共同事業など様々なイベントを開催しており、利用者は保育園、小学校等の団体や高齢者、乳幼児を連れた家族等、幅広い層に及んでいる。

利用者数は令和元年度まで年間約10万人で推移しており、令和2年度、3年度はコロナ禍により5万人以下まで減少したが、令和4年度には7万6千人まで回復している。

なお、平成18年度から指定管理者制度を導入しており、効率的な施設運営が図られている。

(4) 人口減少・社会環境変化に伴う利用者需要の動向

八ヶ岳自然ふれあいセンターの需要については、少子化による人口減少等により、団体利用者である幼稚園や小・中学校等の児童・生徒の数が減少することで、利用者数に影響する可能性はある。

(5) 今後の課題

八ヶ岳の自然環境を活かした環境教育の拠点として、自然環境に関する情報と学習の機会を提供し、自然保護の意識を醸成するため必要な施設であり、今後も利用者の安全性・利便性の確保を最優先に施設を維持管理しながら継続して活用していく必要がある。

しかしながら、開館から28年が経過しており、屋根・玄関・スロープといった建築部位の経年劣化への対応、空調・視聴覚機器といった設備機械に関する更新・改修の必要性が生じている。

3 今後の施設管理の方針

今後も継続して使用していく必要がある施設については、長寿命化事業（施設の使用年数を法定耐用年数を超えて延伸させる事業）を実施する。

施設の改修にあたり必要がある場合は、ユニバーサルデザイン化事業（バリアフリー法に基づく公共施設等のバリアフリー改修事業等、公共施設等のユニバーサルデザイン化のための改修事業）を実施する。

また、施設の改修費の総額が 10 億円以上となる場合は、「山梨県 P P P / P F I 導入指針」に基づき、P F I 等の導入を検討する。

(1) 八ヶ岳自然ふれあいセンター

八ヶ岳自然ふれあいセンターは、環境教育や環境保全の重要性から自然環境に関する情報提供と学習の機会を提供し、本県の良い環境の保全と継承に必要な施設であることから、長寿命化事業を実施する。

4 長寿命化に関する方針

長寿命化対象施設のうち次表の建築物について長寿命化事業を実施する。

No.	施設名	長寿命化対象建築物	
195	八ヶ岳自然ふれあいセンター	195-01	八ヶ岳自然ふれあいセンター

長寿命化事業は、「県公共施設マネジメント実施方針」に基づき、目標使用年数 80 年に向け、計画保全部位・設備について計画的な改修を実施する。

なお、事業の実施に当たっては、「県建築物点検マニュアル」に基づき定期点検を実施し、施設の安全性や劣化度等を十分に考慮し改修箇所の優先順位づけを行う。

また、点検結果及び改修履歴は、公共施設・財産マネジメントシステムに記録し、計画的及び効率的な保全業務に活用する。

<参考> 保全管理の考え方（「県公共施設マネジメント実施方針」）

○管理分類ごとの保全方針

分類		考え方	保全方針
計画保全	予防保全	劣化により建築物の構造躯体の寿命に直接影響を与える部位、故障等した場合に施設利用者の安全性や施設の機能維持に重大な影響を与える設備	予防保全の観点から不具合が生じる前に保全を実施する
	監視保全	劣化・故障等により建築物の寿命、利用者の安全性及び施設の機能維持に影響するが、事前の兆候を把握することにより対処可能な部位・設備	診断や点検結果を注視し、機能停止等の発生前に劣化や不具合の兆候に応じて対応する
事後保全		不具合が生じてから対応しても、建築物の寿命、利用者の安全性及び施設の機能維持への影響が少ない部位・設備	劣化の進行や機能停止の発生状況に応じて適宜対処する

○建築部位・設備ごとの管理分類

建築部位・設備		計画保全		事後保全	
		予防保全	監視保全		
建築	屋根		○		
	外壁	外壁	○		
		外部天井		○	
	建具	外部建具、自動扉		○	
		その他建具			○
内部	内部仕上等			○	
電気設備	受変電	高圧	○		
	発電・静止形電源	非常用発電、交流無停電電源	○		
		太陽光発電			○
	電力	配管配線等、電線類、制御盤、分電盤、OA盤、蛍光灯他			○
	中央監視	中央監視	○		
通信・情報	LAN、電話、表示、映像、防犯等			○	
	自動火災報知		○		
機械設備	空調設備	熱源	○		
		空気調和機、全熱交換器、空気清浄装置、ポンプ、タンク、ダクト、配管		○	
	換気設備、排煙設備、自動制御設備、給排水設備、消火設備、昇降機			○	
衛生設備				○	

5 長寿命化実施計画

長寿命化対象建築物ごとの実施計画は次のとおり（詳細は＜別紙＞参照）。

【単位：千円】

施設番号	施設名称	建物コード	建物名称	建築年	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
195	ハヶ岳自然ふれあいセンター	195-01	山梨県立ハヶ岳自然ふれあいセンター	1994						4,045	42,449		
195 集計										4,045	42,449		
総計										4,045	42,449		

※ 実施計画の改修費や改修年度は、保全マネジメントシステム（BIMMS）を活用して算出したものであり、定期点検結果や県施設全体の優先順位付けの検討結果により変更となる可能性がある。

6 長寿命化対策の実施効果

長寿命化対策の今後 50 年間の実施効果は次表のとおり。

【単位：百万円】

長寿命化型	事後保全型	長寿命化対策の実施効果
218	680	△462

※長寿命化型：BIMMS による全建築物の費用推計（50 年間）

※事後保全型：総務省費用推計ソフトによる全建築物の費用推計（50 年間）

長寿命化実施計画（詳細）

施設番号	施設名称	建物コード	建物名称	建築年	区分	種別	分類	目標使用年数	更新履歴	次回更新年	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	計(千円)	
195	ハケ岳自然ふれあいセンター	195-01	山梨県立ハケ岳自然ふれあいセンター	1994	建築 構造	構造躯体	予防保全	80		2074											
195	ハケ岳自然ふれあいセンター	195-01	山梨県立ハケ岳自然ふれあいセンター	1994	建築 屋根	屋根スレート・かわら類	予防保全	30		2025						2,004	21,026				23,030
195	ハケ岳自然ふれあいセンター	195-01	山梨県立ハケ岳自然ふれあいセンター	1994	建築 外部	外壁仕上塗材	予防保全	15	H18	2025						2,041	21,423				23,464
195	ハケ岳自然ふれあいセンター	195-01	山梨県立ハケ岳自然ふれあいセンター	1994	建築 建具	外部建具	監視保全	40		2034											
195	ハケ岳自然ふれあいセンター	195-01	山梨県立ハケ岳自然ふれあいセンター	1994	建築 建具	自動扉	監視保全	80	H26	2094											
195	ハケ岳自然ふれあいセンター	195-01	山梨県立ハケ岳自然ふれあいセンター	1994	電気 通信・情報(防災)	自動火災報知	監視保全	20	H22	2030											
195	ハケ岳自然ふれあいセンター	195-01	山梨県立ハケ岳自然ふれあいセンター	1994	機械 給排水設備	給排水(ポンプ、タンク、配管等)	監視保全	30		2029											
195	ハケ岳自然ふれあいセンター	195-01	山梨県立ハケ岳自然ふれあいセンター	1994	機械 消火設備	消火設備一式	監視保全	30		2029											
			長寿命化対象1棟			長寿命化対象	予防保全									4,045	42,449				46,494
							監視保全														
						長寿命化対象施設計										4,045	42,449				46,494

※ 実施計画の改修費や改修年度は、BIMMS を活用して算出したものであり、定期点検結果や県施設全体の優先順位付けの検討結果により変更となる可能性がある。

施設の建築物等所有状況一覧 (R5.3.31 現在)

長寿命化対象	法定点検	施設番号	施設名称	所在地	建物番号	建物名称	建物種目	建築面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	建物構造	(地上) 階数	(地下) 階数	新築日付	築年数	耐震状況 実施診断	耐震補強 実施状況	所管課
○	○	195	ハケ岳自然ふれあいセンター	北杜市大泉町西井出石堂8240-1	1	山梨県立ハケ岳自然ふれあいセンター	事務所建	884.00	798.66	鉄骨造	1	0	1994/10/31	28	不要	不要	環境・エネルギー部自然共生推進課